



偉人の足跡 / 伊佐 庾 如矢
[文政11年～明治40年]

明治23年、道後湯之町の初代町長に就任し、町長を3期務めました。その間、道後公園の整備や、老朽化した道後温泉本館の改築事業を成功させ、まちづくりに尽力しました。



道後温泉本館

- 8. 明治27年に改築された道後温泉 神の湯
- 9. 開業を祝う松山電気軌道の花電車
- 10. 明治末期の高浜港
- 11. お台場(砲台のある場所)海水浴場ともいわれた三津海水浴場
- 12. ロシア兵の葬式
- 13. 松山電気軌道会社の開通当時の一番町停留所
- 14. 東堀端付近。右手の建物が松山中学校

- 1. 湊町の円光寺より出淵町一丁目(三番町)に移転した市庁舎
- 2. 一番町～道後～三津口間に開通した道後鉄道
- 3. 伊予鉄道が梅津寺臨時停車場を設置し、開設された海水浴場
- 4. 坊っちゃんの姿を彷彿とさせる松山中学校
- 5. 県道土佐街道の重信川に架橋された重信川橋(森松橋ともいう)
- 6. 道後湯築城跡から松山城を望んだ景色。手前は湯築城跡の外堀
- 7. 開港当時の高浜の風景

明治22年-45年

【1889-1912】

明治45年 (一九一二年)	明治44年 (一九一一年)	明治43年 (一九一〇年)	明治41年 (一九〇八年)	明治40年 (一九〇七年)	明治39年 (一九〇六年)	明治38年 (一九〇五年)	明治37年 (一九〇四年)
7・20	4・4 4・7	10	4・1 10・17	5・27	9・12 4・10	2・7 1・9	7 5・21 4
三津海水浴場浴場開き	下村為山の考案による市章を制定 市制二十周年を記念し、県下重要物産共進会を開催(5・1)	伊予鉄道が電気鉄道化に着手(6開園)	市が松山城の一部を三年間無料で国から借用、市民に公開し、松山公園と命名(5・6開園)	市内電話が開通	夏目漱石が小説「坊っちゃん」を「ホトトギス」に発表	伊予鉄道の松山～高浜間が全通	松山がロシア俘虜収容地に指定され、城北練兵場・御幸村山越の寺院を充当
			伊予鉄道会社が松山駅改築落成式と創業二十周年の祝典を挙行(10・18)	石手寺本堂、三重塔、鐘楼などが国宝に指定	高浜港の開港式を挙	市役所・県庁間に市設電話が開通	歩兵第二十二連隊が高浜港から満州に出征(後、補充出征は十八回に及ぶ)

明治36年 (一九〇三年)	明治34年 (一九〇一年)	明治32年 (一九〇九年)	明治30年 (一九〇七年)	明治28年 (一九〇五年)	明治27年 (一九〇四年)	明治25年 (一九〇二年)	明治24年 (一九〇一年)	明治23年 (一九〇〇年)	明治22年 (一九八九年)
10・3 14・20	3 27	7・3 6・30	1・15	8・8 27・22	4・4 3・10	8	12・28	4・1 1・18	12・15
道後温泉震災復旧五十年記念大祭を開催 皇太子嘉仁親王(大正天皇)が来松され、道後温泉にご入湯(10・17)	太山寺の木像十一面観音立像、宝蔵寺の木造一遍上人立像、大宝寺の阿弥陀如来坐像・木造釈迦如来坐像が国宝に指定	梅津寺に海水浴場が開設	柳原極堂が俳句雑誌「ほととぎす」を創刊	道後鉄道の一番町～道後～三津口間が開通 正岡子規が夏目漱石と愚陀仏庵(一番町)で同居(10・19)	夏目漱石が愛媛県尋常中学校の英語教師として着任	夏目漱石が正岡子規の中の川の家に来泊	市役所が出淵町一丁目(三番町)の新庁舎に移転	第一回松山市議会議員選挙、三十人の新人議員当選(1・6)	松山市誕生(人口三万二千九百六十六人、事務取扱所は湊町四丁目の円光寺内に設置)
					津浜から出征(8・14)			第一回松山市会の招集 松山市役所開庁	